

2020 年度
学校自己評価報告書

2021 年 4 月

学校法人八文字学園

 水戸看護福祉専門学校

◆2020年度 学校自己評価について

学校法人八文字学園 水戸看護福祉専門学校は、創立以来、常に時代のニーズを先取りした援助者教育を徹底し、また最先端の教育設備を整え、専門的で実践的な人材を社会に輩出してまいりました。

我が国の医療福祉領域は、かつてない激動の時代を迎えており、介護保険制度や障害者総合支援法の成立を筆頭に、これまでにない期待が社会福祉従事者や医療従事者に求められております。援助を必要とする方々の多様なニーズに的確に対応でき、かつ、その利用者の自立を支援できる高度な知識と技術を持ち合わせた人材の養成が急務であると言えます。

水戸看護福祉専門学校は、未曾有の少子高齢化社会や多様な医療・福祉ニーズに対応できる専門的知識と技術を身につけた、我が国の医療・福祉の発展と共に臨床の問題解決を指向するスペシャリストの育成を使命としております。

本校では、平成20年度より学校自己評価を実施し、更に文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として、本校の教職員が更なる教育の質の向上を目的として自校の教育活動その他の学校の状況について客観的に評価し、現状の把握、問題点の発見ならびに改善策の検討・実施を行っております。

1. 対象期間

2020年4月1日～2021年3月31日

2. 実施方法

(1) 自己点検評価委員会による合議制の評価

実行委員会を設置し、自己点検・自己評価を実施し、改善に取り組んでいます。

学校長をトップとして学校自己評価委員（教職員）により、その規定によって方針を定め、評価を行っております。

(2) 参考基準：「専修学校における学校評価ガイドライン」

(3) 評価期限：年一回年度末

(4) 評価結果の公開：報告書の作成保管およびホームページでの公開

3. 自己評価の項目

自己評価は、以下の11項目について実施します。

- (1) 教育理念・目的
- (2) 学校運営
- (3) 学校活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

4. 評価項目に対する評価

評価は 4～1 の点数で記載します。

評価 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

◇基準 1 教育理念・目的

教育理念：人間力の育成

1. 実践的な専門知識や技術の習得に強い興味と熱意を持っている人材 対人援助職者に求められる素養と力量を有した人材の養成
2. 人の気持ちに共感でき、豊かな人間性を有する人材。共感、受容をはじめとする基本的な人間性と、援助者の専門性の確立
3. 協調性があり、コミュニケーション能力をもち、問題解決を高めようとする人材 自己表現力、論理的な思考と構成のスキルの向上を図り、より良い提案を的確に伝える力の育成

地域で活躍する看護職や対人援助職である介護福祉士の育成と豊かな人間性、創造性、協調性、そして実践力の専門性の習得と確立を教育目標とします。この教育理念にプラスして、一つでも多くの高度な資格を取得しスペシャリストの育成を目的として問題解決型指向の人材養成に取り組んでおります。

(1) 評価

評価項目		評価 (4～1)
ア	理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
イ	学校における職業教育の特色を示しているか	4
ウ	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
エ	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4
オ	各学科の教育目的、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

(2) 現状および問題点と改善策

- ア. 教育理念は明確に定められている。
- イ. ホームページやパンフレット等に学科ごとの職業教育の特徴を表している。カリキュラムの実効性の評価や業界の動きを的確にキャッチする仕組みが必要である。
- ウ. 学校の将来構想については、業界の人気低迷と希望学生の減少傾向により、短期的な見通しはあるが、中長期的構想は立てにくいので学内プロジェクトを立ち上げ、対策を始めることが必要である。
- エ. 教育理念や育成人材像等について、学生には行事やホームルーム等で周知している。
- オ. 教育課程編成委員会において、福祉施設や関連団体、有識者の声を参考に、変化に対し敏感に柔軟性をもって対応している。

◇基準2 学校運営

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
ア	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
イ	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
ウ	運営組織や意識決定機能は明確化され、有効に機能しているか	4
エ	人事、給与に関する制度等は整備されているか	4
オ	教務や財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
カ	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
キ	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
ク	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

(2) 現状および問題点と改善策

- ア. 運営方針は、1 条校を意識した学校としての品位を前提に学校運営方針が定められている。
- イ. 目的・事業計画を基に年度ごとに策定し、年度初めに全教職員対象の研修会および教育研修会で周知している。
- ウ. 学校運営に関する組織は整備されており、年度ごとに策定し、年度初めに全教職員対象の研修会で周知し、必要に応じて人員体制等の変更を検討している。
- エ. 人事、給与に関する制度は整備されており、時代に合わせた見直しを適宜検討している。人事面においては、問題点を明らかにし改善の方策を検討していく。
- オ. 学園全体の組織における業務分掌の再検討と明文化を進めるための準備をしていく。
- カ. 学内規程・マニュアル・倫理・社会貢献・法令の遵守など常識程度又は最低限のレベルでの自発的な取り組みをしており、また状況に応じて個別対応している。規定の整備や組織的な取り組みについては今後の検討課題である。
- キ. 教育活動とその成果については、Facebook、ホームページ、チラシ等を通じて適宜、適切に公開している。学科ごとの教育の概要や成果については、入学案内書、ホームページ、冊子にて公開している。
- ク. クラウドコンピューティング、e-learning、SNS の活用等、情報システムによる業務の効率化は図られているが、予算面の制約や技術面スピードの速さによりシステムの見直しが難しくなっている。

◇基準3 教育活動

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
ア	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4



イ	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
ウ	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
エ	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
オ	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
カ	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によりインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
キ	企業や専門家の意見・評価を受け、より実践的な能力を修得する機会が整備されているか	4
ク	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
ケ	成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
コ	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
サ	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
シ	関連分野における先端的な知識・技能等の修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか	4
ス	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

(2) 現状および問題点と改善策

- ア. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている。
- イ. 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保を設定しているが年度ごとの学力差異や個人差があり、現実的にレベル維持の問題もある。
- ウ. 学科ごとにカリキュラム（学科概要、科目関連、シラバス）は体系的に編成されている
- エ. 茨城県内の福祉領域のみならず、全国的な育成人材像や領域のニーズ、目標等を明確にしている。技術や業界の要求水準が年々変化する中、限られた年限での到達レベルについては継続的な検討が必要である。
- オ. 教育課程編成委員会において、病院、診療所、福祉施設、福祉団体、有識者等の声を参考に、変化に対し敏感に柔軟性をもって対応している。
- カ. 病院や福祉施設等と連携した実習授業を行っており、実践的な職業教育について体系的に位置づけている。
- キ. 介護福祉学科は2年間の介護福祉実習を通して、看護学科は3年間の隣地実習を通して、実践的な能力を修得する機会を設けているが、さらに充実した企業連携教育を目指していく。
- ク. 授業評価は、学生からの授業アンケート、教員の自己評価、管理職による授業評価を行っており、それらを総合して評価する体制を整え毎年実施している。
- ケ. 成績評価の基準は、学生心得の中で、わかりやすい言葉で具体的に示してあるので、周知面では十分である。また学則、教務内規およびシラバスに明記されており、そ

れに従って運用している。

コ. 目標とする資格は、カリキュラム上で、わかりやすい言葉で、できるだけ具体的に示しているので、周知の面では十分である。

しかし、サポート体制については、カリキュラムの実効性の評価や時間数、教育内容など学生の状況を鑑みながら、今後改良工夫を加えていく必要がある。

サ. 採用は、資格取得、経験年数、業務内容、指導力、人間性等の教員の資質面を重視に努めている。また、必要な場合は、業界、福祉施設等と連携して行っている。

シ. 教員の研修については、国内外の各種学会参加および発表や専門分野の最新技術や知識についての研修を必要に応じて実施している。

ス. 教員の研修については、国内外の各種学会参加および発表や専門分野の最新技術や知識についての研修を必要に応じて実施している。

◇基準4 学修成果

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
ア	就職率の向上が図られているか	4
イ	資格取得率の向上が図られているか	4
ウ	退学率の低減が図られているか	4
エ	卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	4
オ	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4

(2) 現状および問題点と改善策

ア. 進路指導室での個人指導の徹底、茨城県内を中心とした全国の求人情報の開示、担任を中心とした就職対策など授業枠での指導など総合的な就職支援活動を展開して就職率の向上を図っている。

イ. 多様な目標資格を設定し、特別講座等、支援策を講じて組織的に指導体制を組んでいる。

ウ. 退学防止として担任による面接指導、スクールカウンセリングの充実、基礎学力の充実などの指導に力を入れている。また、入学する学生の学力の低下や学生自身の精神的な問題、学生を取り巻く家庭的な原因など対応しにくい複雑な要因に取り組むための支援策を検討する。

エ. 卒業生の社会的活躍及び評価は、SNS や彼らの所属団体との連絡体制によって概ね把握している。卒業生のその後のフォローと、彼らのキャリアパスも同様に取り組んでいる。

オ. 卒業生については、担任や就職相談室において、転職などの相談にも応じる。

◇基準5 学生支援

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
ア	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4

イ	学生相談に関する体制は整備されているか	4
ウ	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
エ	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
オ	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
カ	学生の生活環境への支援は行われているか	4
キ	保護者と適切に連携しているか	4
ク	卒業生への支援体制はあるか	3
ケ	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
コ	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の組織が行われているか	3

(2) 現状および問題点と改善策

- ア. 担任を中心として進学・就職指導を行っている。また、年度末に就職相談会などを実施している。
- イ. スクールカウンセラーを配置している。また、臨床心理士や精神保健福祉士の資格を有する教員が対応している。
- ウ. 一人暮らし支援制度、定期券半額負担制度、特待生入学制度(学業特待、資格特待、精勤特待、OC特典)、学費の分割納入など支援する制度を整備している。また、日本学生支援機構奨学金や国民金融公庫・県の奨学金、民間奨学金の積極的な紹介により支援している。
- エ. 定期的な健康診断の実施、規則正しい生活とバランスのとれた食事の指導、精神的な安定の重要性やゆとりある生活の推進など「心と体の健康管理」の支援をしている。必要な場合は学校医と連携して適切な対応ができています。
- オ. 学校全体で行うバスハイクや国際福祉機器展見学、病院見学、学園全体で行うスポーツ大会、希望者による学会活動、サークル活動、ボランティア活動等、多岐にわたって支援している。
- カ. 保護者宛ての発送文書(成績、出欠状況、資格取得状況)や担任制での電話連絡、面談、家庭訪問など密に連絡し、適宜三者面談等を実施している。
さらに、学校行事や検定試験等についても、案内、連絡している。
- キ. SNSを中心とした卒業後連絡や転職相談対応を行っている。
- ク. 高校生、社会人、実務者に対する模擬授業、講習会などを行っている。

◇基準6 教育環境

(1) 評価

	評価項目	評価(4~1)
ア	施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
イ	学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4
ウ	学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	4
エ	防災、防犯に対する安全管理体制は整備されているか	4

(2) 現状および問題点と改善策

- ア. 施設・設備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されている。実習用設備は毎年実習室ごとに見直しを行い、定期的に検討した上で導入している。
- イ. 介護福祉実習、隣地実習、ボランティア実習、病院や福祉施設でのアルバイトのコーディネート、その他、必要に応じた更なるインターンシップを実施している。
- ウ. 学生が自主的に学習するスペースとして各学科ごとに図書室を整備し、開放している。
- エ. 防災に関する計画書および災害時の行動マニュアルは整備しており、避難経路の周知や緊急避難時の連絡体制は整備されている。各種防災に対する安全指導体制を進めている。業者等による消防設備等の点検（年2回）や学生の傷害保険等も行っている。防犯については、防犯マニュアルを準備し、適宜指導している。

◇基準7 学生の受け入れ募集

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
ア	学生募集活動は、適正に行われているか	4
イ	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
ウ	学納金は妥当なものとなっているか	4

(2) 現状および問題点と改善策

- ア. 学生の確保は、学校運営上最重要課題である。そのため学生募集活動は、必須条件となる。専門学校が持つメリット・魅力を高校生や保護者、高校教師、一般の人々にどのようにして訴え、惹きつけるか。学校の実績を基本に、真実性、公平性、客観性において、入学希望者に対して本校の教育の取り組みや成果について適切な入学情報を提供できるよう配慮している。
- イ. 就職実績、資格取得実績の教育成果は正確に伝えられている。また、本校の教育内容、成果を十分理解できるように「入学案内」や「ホームページ」、「学校見学会」、「体験入学会」、「オープンキャンパス」、さらにSNS上などで詳細に説明している。
- ウ. 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、他校の状況や経済状況から見ても、総合的に見て妥当な水準である。

◇基準8 財務

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
ア	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
イ	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
ウ	財務について会計監査が適正に行われているか	4
エ	財務情報公開の体制整備はできているか	4

(2) 現状および問題点と改善策

- ア. 各年度の収支とこれまでの蓄積を充て、借入をせずに自己資金で賄ってきており、

- 財務諸表の通り財政基盤は安定していると考えている。今後も中長期的に安定して入学者を確保するための計画、戦略を実施し財務基盤の強化に努める。
- イ. 学校運営にとって、財政基盤の安定確保は最重要課題であり、法人全体としても厳格な予算編成を行っている。学園全体の予算編成方針に基づいて計画を立案し、各校の運営計画に従って予算を執行している。
- ウ. 会計監査については、税理士の指導を受けながら会計処理を行った上で、公認会計士による外部監査、本法人の監事2名による内部監査を毎年度2回（5月と12月）実施しており、指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じている。
- エ. 平成23年度より私立学校法の規定に従って、財務諸表等を作成し、理事会の承認を得て公開している。

◇基準9 法令等の遵守

(1) 評価

評価項目		評価（4～1）
ア	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
イ	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4
ウ	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
エ	自己評価結果を公開しているか	4

(2) 現状および問題点と改善策

- ア. 県・国に関係書類を提出し運営許可を得ている。また、法令や設置基準に対しては、設置基準者が把握し遵守している。教職員に対しては法令の改正、新法令の制定などが発生する都度、研修会などを通して注意を促している。
- イ. 「個人情報管理規定」を策定し、個人情報の適正な管理運用に努めている。日常の個人情報の取り扱いにおいて、個人情報の保護に対する意識付けを強化し、定期的な注意喚起を行う。
- ウ. 自己評価については、「学校自己評価委員会」を組織し、定期的な評価を通して問題点を明らかにするとともに、その対策および改善策を検討している。
- エ. 自己評価結果については、自己点検評価報告書を作成し、学園ホームページで公開している。

◇基準10 社会貢献・地域貢献

(1) 評価

評価項目		評価（4～1）
ア	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
イ	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
ウ	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

(2) 現状および問題点と改善策

- ア. キャリア形成事業として、茨城県内の福祉施設における出張講座を実施している。
また、高校生への模擬授業を行っている。
- イ. 多様なボランティア活動は実施している。必要に応じて教員も学生とともに参加している。
- ウ. 職業訓練生を受け入れている。

◇基準 11 国際交流

現在、留学生の受け入れは、行っておりません。

以 上